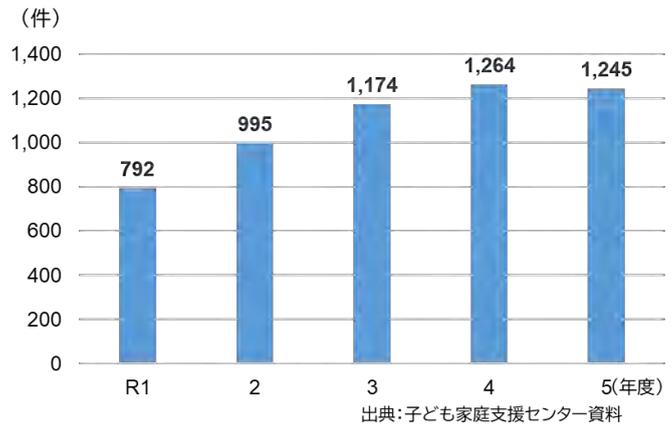


4 児童虐待の状況

1 要保護児童対策地域協議会の取扱件数

- 児童虐待に対する地域や関係機関の危機感の高まりにより、新規の相談・通告件数が増加しています。令和5年2月に豊島区児童相談所を開設し、児童相談所・子ども家庭支援センターの両輪で支援を進めています。



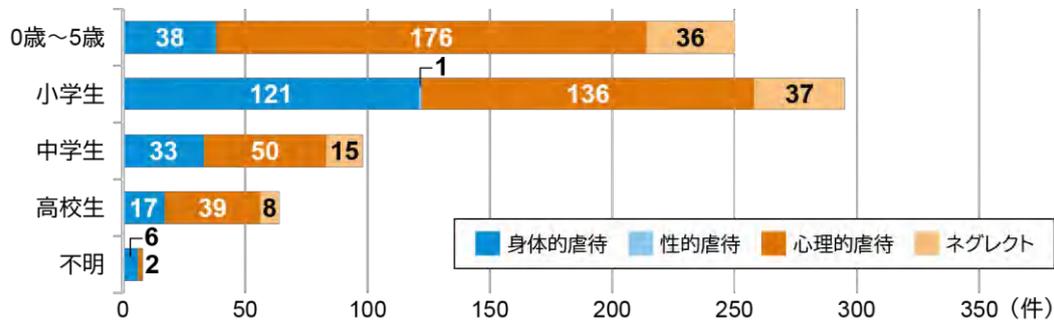
【「豊島区要保護児童対策地域協議会」とは】

要保護児童対策地域協議会とは、虐待等不適切な養育を受けた子ども等、要保護児童等に関する相談・通告を受け、情報の共有と支援を行うために協議を行う場です。児童福祉法では、区市町村は要保護児童対策地域協議会を設置し、虐待を含むすべての子ども・家庭相談を受け、問題解決に向けて対応することを努力義務化しています。

豊島区においては、東部子ども家庭支援センターが要保護児童対策地域協議会の中核機関として、要保護児童等に対する支援のためにネットワークの運営にあたります。

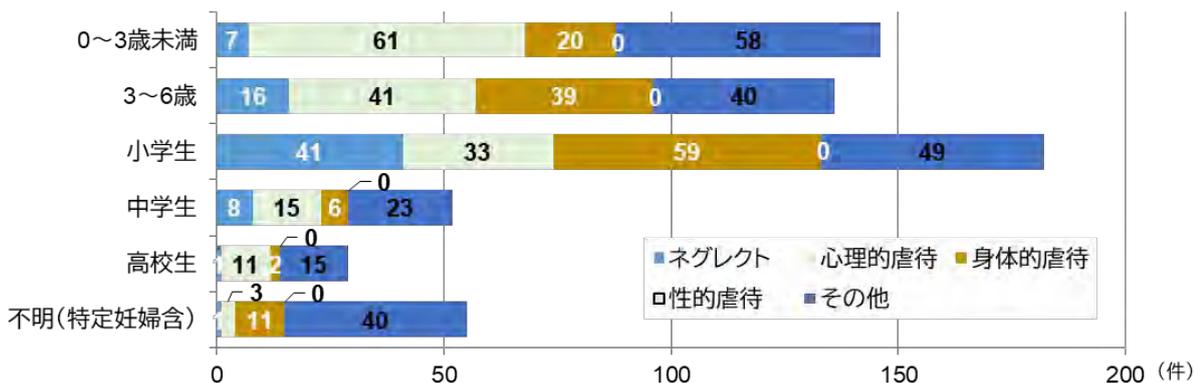
2 児童相談所における被虐待児童の相談対応状況(令和5年度)

- 児童相談所に対応した児童虐待件数のうち、心理的虐待が全体の約半数を占め、なかでも小学生への虐待が多くなっています。



3 新規受理要保護児童等の年齢区分別・主訴別件数(令和5年度)

- 子ども家庭支援センターでは、相談種別のその他にあたる児童虐待以外の相談(養育困難・特定妊婦)の割合が相談全体に対して高くなっています。



5 不登校・ひきこもりの状況

計画の基本的な考え方

子ども、若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

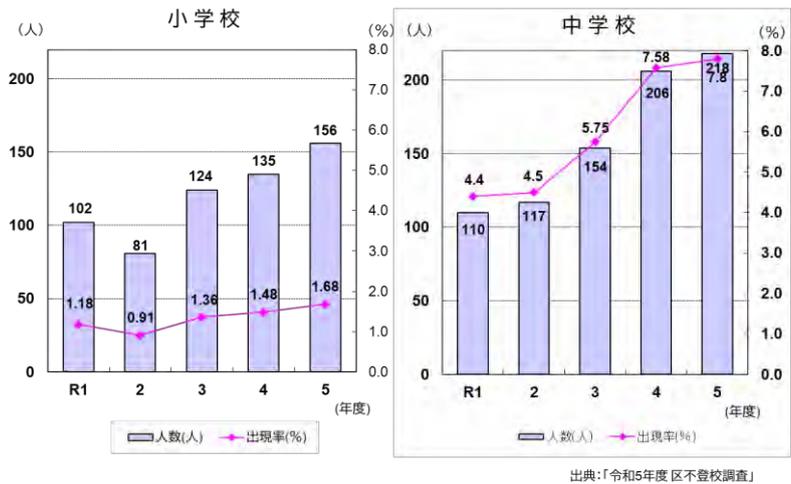
第三期子ども・子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

資料編

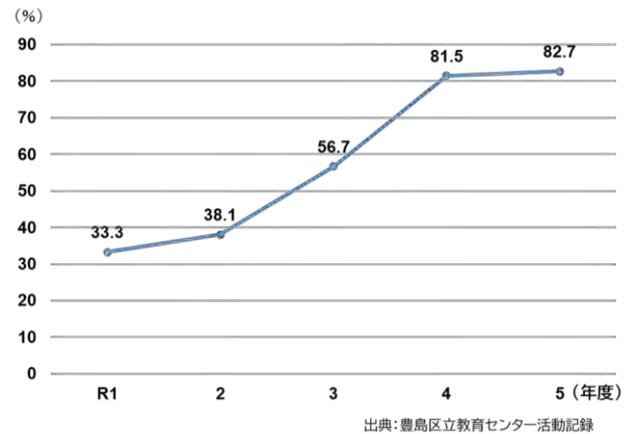
1 不登校児童・生徒の推移

- 不登校児童・生徒数は、小学校・中学校ともに増加しています。



2 柚子の木教室(適応指導教室)における学校復帰率

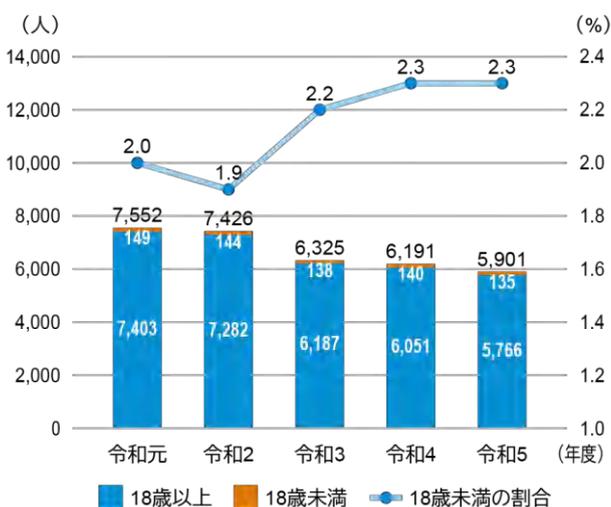
- 令和5年度の柚子の木教室においては、在籍75人のうち62人の児童・生徒が学校へ復帰しました(復帰率82.7%)。



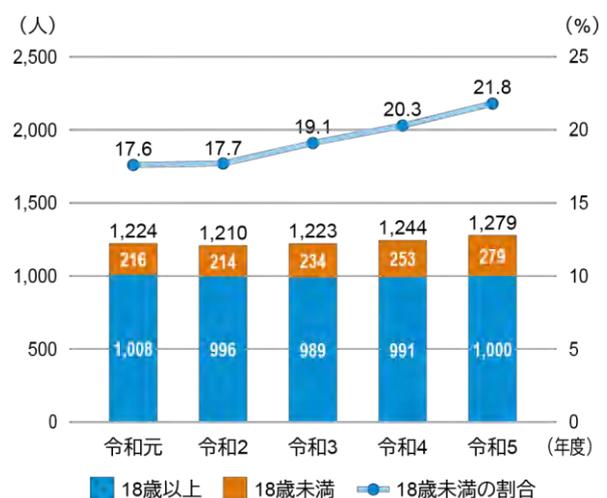
6 障害のある子どもの状況

- 身体障害者手帳所持者数はここ5年間でほぼ横ばいですが、愛の手帳(東京都療育手帳)所持者数は近年微増傾向にあります。

身体障害者手帳所持者数の推移



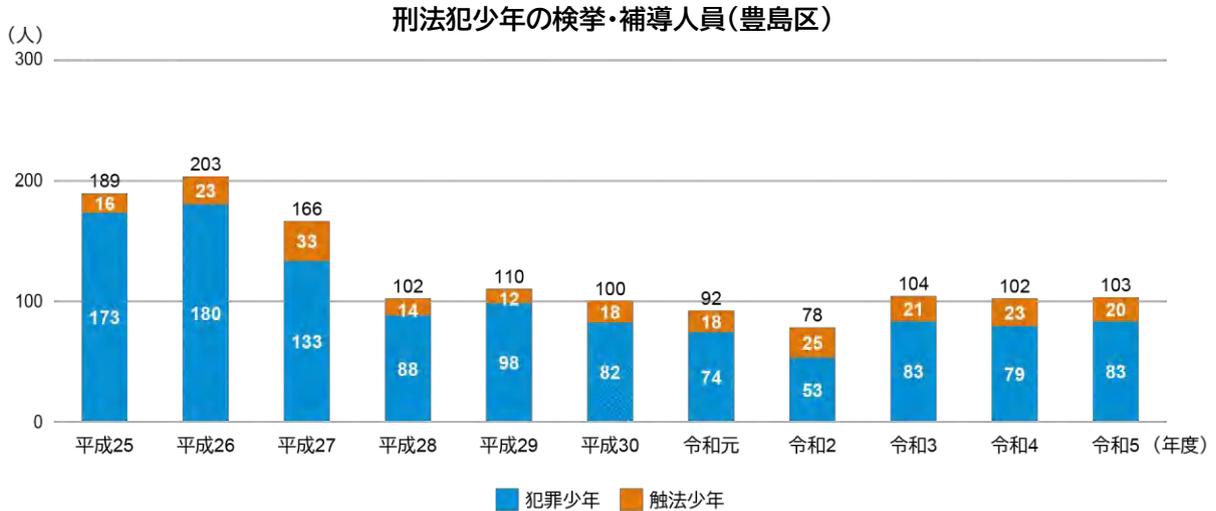
愛の手帳所持者数の推移



出典:豊島区の社会福祉

7 非行の状況

- 平成25年度以降の刑法犯少年の検挙・補導人員は、平成28年度に大きく減少し、コロナ禍であった令和2年度を除き、100人前後で横ばいとなっています。



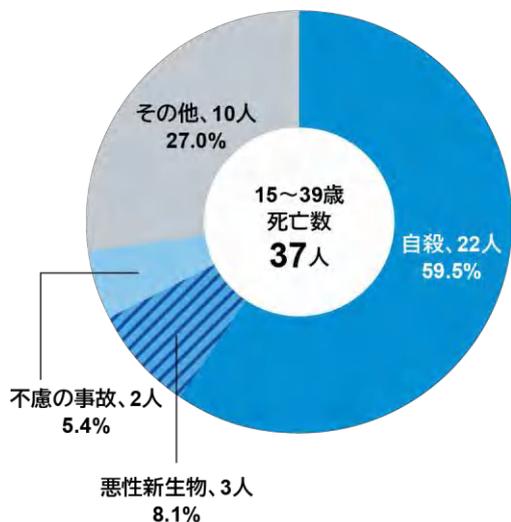
※犯罪少年:14歳以上20歳未満の少年で罪を犯した者(交通関係を除く)
 ※触法少年:14歳未満の少年で刑罰法令に触れる行為をした者(交通関係を除く)

出典:警視庁の統計(豊島区内の池袋・巣鴨・目白警察管内の件数の合計)

8 自殺者数の推移

- 15歳から39歳の死因のトップは自殺となっています。
- 厚生労働省が、全国の令和5年中における自殺のうち、遺書等により推察できる原因・動機をまとめた資料によると、19歳までは学校問題、20代・30代は健康問題、特にうつ病などの精神疾患の悩み・影響が多くなっています。

15～39歳の主要死因分類(令和4年)



出典:豊島区の保健衛生

【参考】

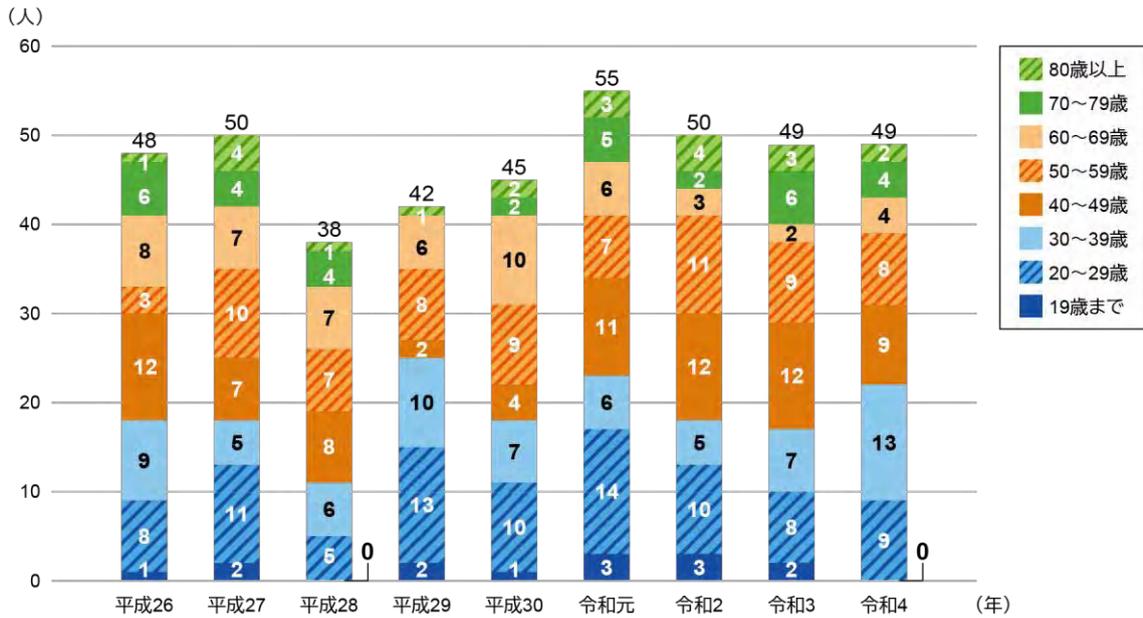
原因・動機特定者の原因・動機別(全国)

	～19歳	20～29歳	30～39歳
家庭問題	155	358	574
健康問題	263	1,005	1,130
経済・生活問題	32	531	771
勤務問題	29	491	547
男女問題	70	358	187
学校問題	326	195	3
その他	106	246	216
	981	3,184	3,428

出典:厚生労働省 令和5年中における自殺の状況
 注)自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注)遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上することとしたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者の和とは一致しない。

自殺者数の推移

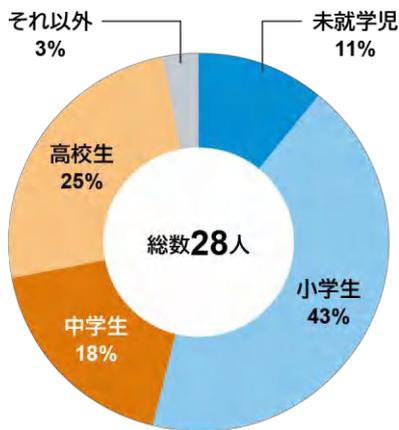


出典：豊島区の保健衛生

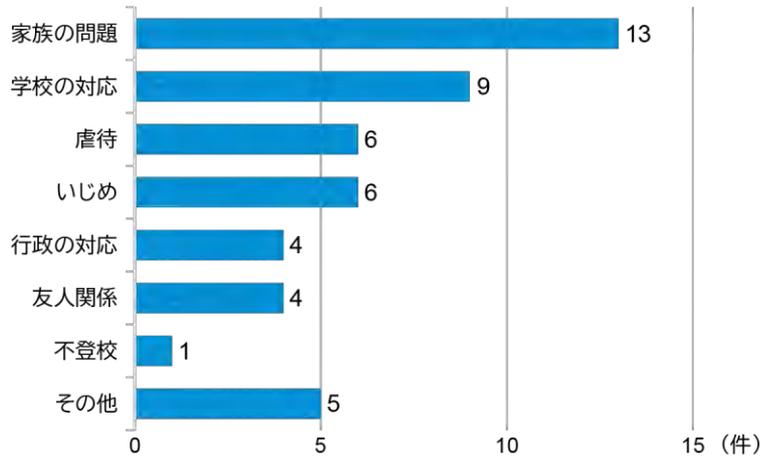
9 子ども・若者の相談に関する状況

1 としま子どもの権利相談室への相談状況(令和5年9月開設～令和6年3月)

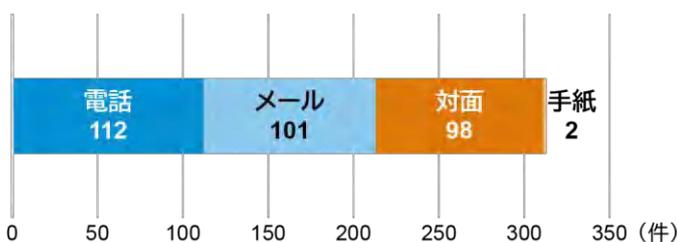
年代別相談者数



相談内容別相談件数(重複有)



活動・支援回数(件)



- 「としま子どもの権利相談室」について、相談者数を年代別にみると「小学生」が最も多く、相談内容については「家族の問題」が最も多くなっています。また、およそ週1回の頻度で新規の相談を受け付けています。

出典：子ども若者課作成資料

計画の基本的な考え方

子ども・若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

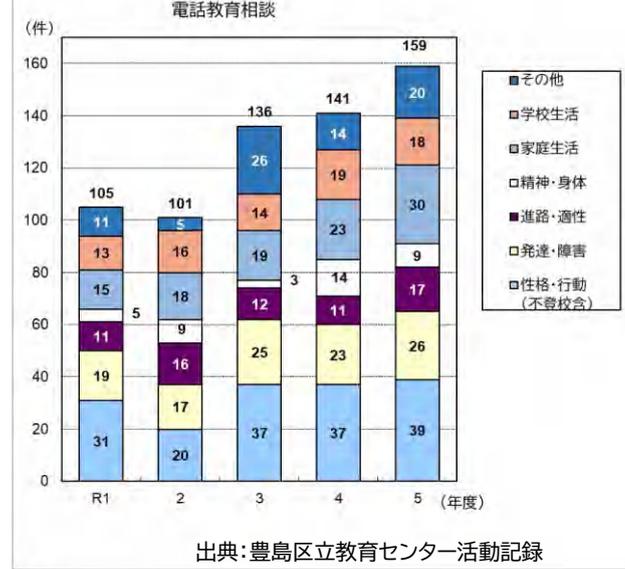
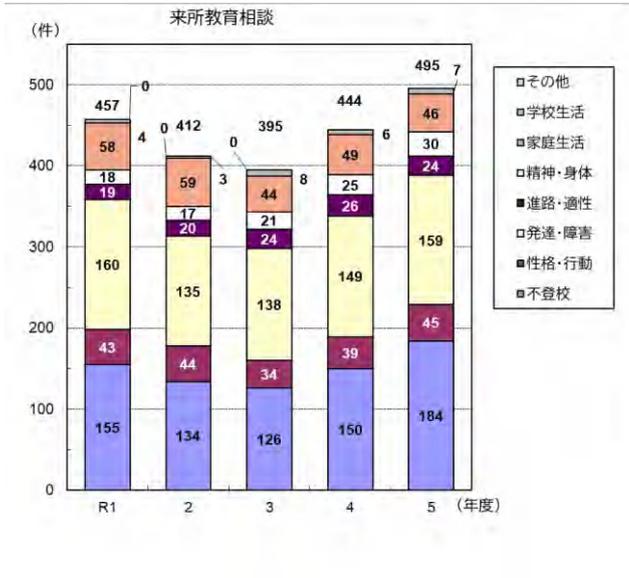
第三期子ども・子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

資料編

2 教育相談の内容別件数

- 教育センターにおける相談の件数を主訴別にみると、不登校や発達・障害に関する相談が増加しています。

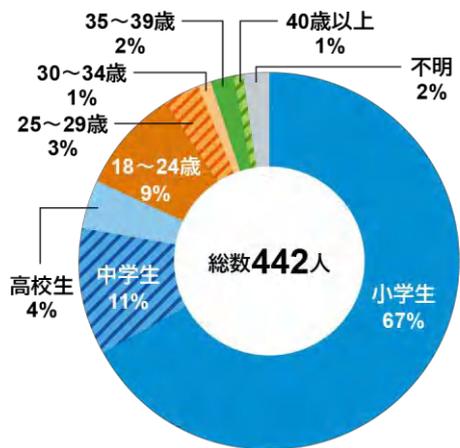


出典：豊島区立教育センター活動記録

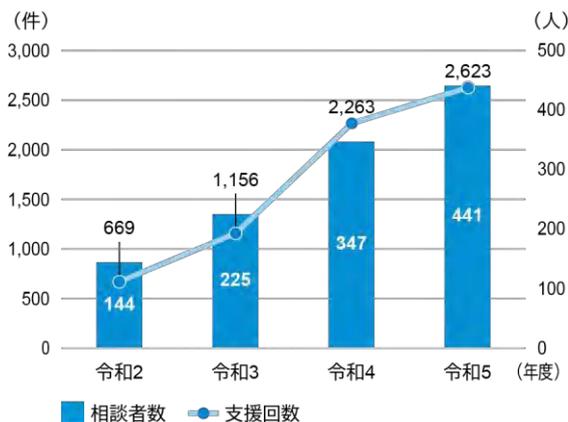
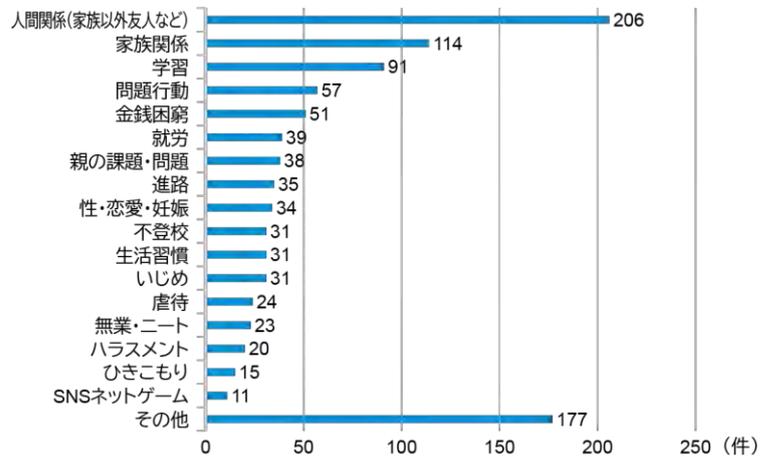
3 アシスとしまへの相談状況

- 子ども若者総合相談窓口である「アシスとしま」について、登録相談者数を年代別にみると小学生が最も多く、相談内容別に相談件数をみると「人間関係」が最も多く、次いで「家族関係」が多くなっています。

「アシスとしま」年代別登録相談者数
令和5年度



「アシスとしま」相談内容別相談件数(重複有)
令和5年度

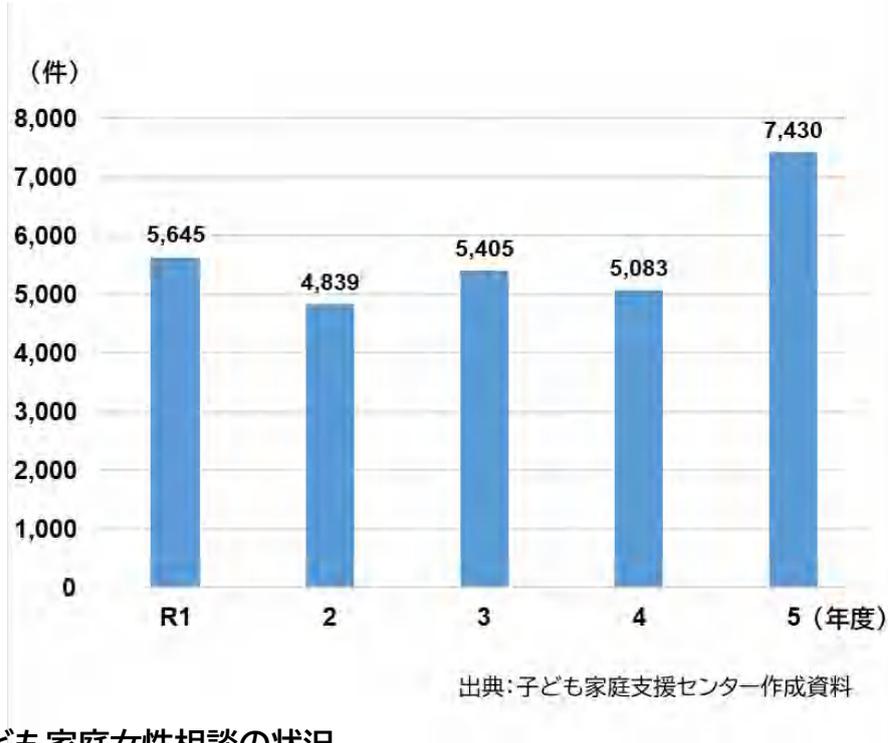


- 相談者数、支援回数は年々増加しています。

出典：子ども若者課作成資料

4 児童発達支援センター(西部子ども家庭支援センター)への相談状況

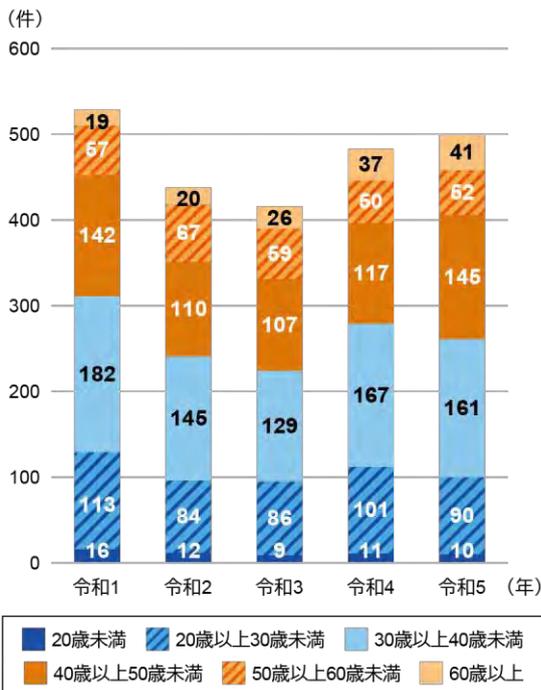
- 発達相談件数は、増加傾向が続いています。



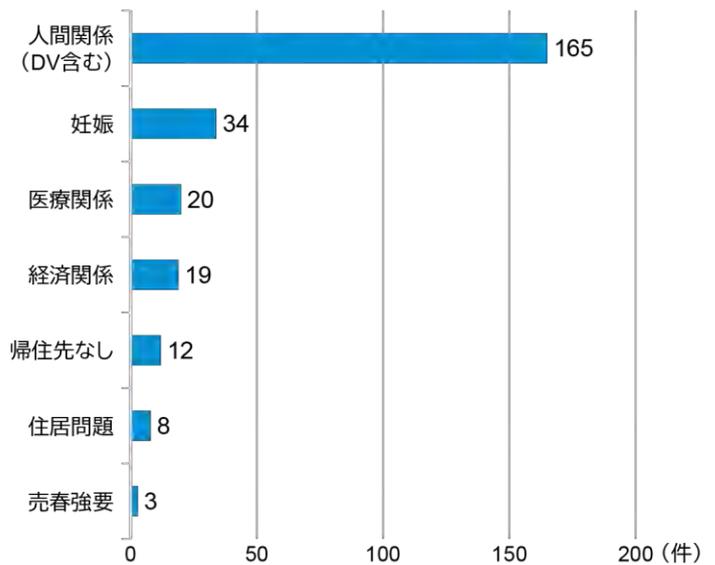
5 子ども家庭女性相談の状況

- 30歳以上40歳未満の年齢の女性からの相談件数が多くなっています。
- 40歳以下の相談の内容は、人間関係(DV含む)が最も多くなっています。

女性相談件数の推移



相談内容別相談件数
令和5年度(40歳以下の相談、総数261件)



計画の基本的な考え方

子ども、若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

第三期子ども・子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

資料編